北の杜学園の取組

令和５年 12 月
太田市教育委員会
学校教育課
第３号

前回の第２号（令和５年７月発行）では、施設一体型の義務教育学校である北の杜学園の特色ある教育活動の中から､｢異年齢交流の充実｣についてご紹介しました。

今回の第３号では、「５年生からの教科担任制」という指導形態についてご紹介します。

特色ある教育活動

- ４つのステージによる指導
- ５年生からの教科担任制
- 異年齢交流の充実
- 地域に開かれた学校

教科担任制とは

教科担任制とは、中学校において一般的に取られる、教職員が専門科目ごとに授業を担当する方法です。小学校は、すべての教科を担任が教える学級担任制を基本としていますが、北の杜学園では、発達段階を踏まえ、５年生から教科担任制を取り入れています。

文部科学省は令和４年度から、全国の公立小学校高学年でこの教科担任制の導入を進めていますが、北の杜学園は、令和３年度の開校当初からこの取組を本格的に行っています。

5年生から教科担任制を取るねらい

【集中力・理解度・定着度の向上】

北の杜学園では、５年生から教科担任制を取り入れ、授業時間を 50 分（４年生までは 45 分）とし、集中力や学力の向上に繋げています。早い段階から各教科の免許を持った教員が専門性を生かした授業を行うことで、児童生徒の学習内容に対する興味・関心を高め、理解度や定着度の向上を図ることをねらいとしています。

【中１ギャップの解消】

前期課程（小学校）から後期課程（中学校）に進学する際に、学習環境や生活環境が大きく変化することにより、学校に適応できなくなる「中１ギャップ」という問題の解消につなげることもねらいとしています。6 年生から７（中学１）年生へと進学する際に、生徒が体験する段差の大きさに配慮して、５年生から教科担任制や 50 分授業を導入することで、７（中学１）年生になるまでの間の接続をよりスムーズにすることができます。また、学級担任制と教科担任制の併用により、より多くの多様な教職員が児童生徒に関わる体制が確保でき、児童生徒の多面的な観察が可能となり、個々に応じたきめ細やかな指導を行っています。